

## 若本夏美

WAKAMOTO Natsumi

教授



## [現在の専門分野]

第二言語教育・応用言語学

## [現在の研究テーマ]

## 外国語学習者方略とラーニング・スタイルに関する研究

[学位] 修士 (学校教育学) (兵庫教育大学)、Ed. D. (Second Language Education) (カナダ・トロント大学)

[所属学会] Teachers of English to Speakers of Other Languages (TESOL)、American Association for Applied Linguistics (AAAL)、The Japan Association for Language Teaching (JALT)、Association for Psychological Type (APT)、外国語教育メディア学会 (LET)、大学英語教育学会 (JACET)、全国英語教育学会 (JASELE)、関西英語教育学会 (KELES)

## ■ 主要研究実績

- (著書) Extroversion/Introversion in Foreign Language Learning: Interactions  
With Learner Strategy Use Peter Lang Publishing 2009年  
Sailing: English Conversation (共著) 啓林館 2012年
- (論文) 英語学習の個人差と学習ストラテジーに関する研究 *Step Bulletin* 1993年  
Language learning strategy and personality variables  
*International Review of Applied Linguistics in Language Teaching* 2000年
- (学誌) Where do teachers beliefs come from? *Foreign Language Education and Technology IV* (共同研究) 2000年  
Applying "Strategizing" in a Japanese EFL learning enviroment: Personality-based learner styles and strategy selection AAAL 2011年  
Strategizing : A new theoretical framework for strategy training 16th World Cngress of Applied Linquistics 2011年
- (講演) 第二言語習得とパーソナリティ: 外交的-内向的学習者の学習方略の相違について  
日英・英語教育学会 2008年第5回京都研究大会 同志社女子大学 2008年  
教室に生かす英語学習者ストラテジーとは  
関西英語教育学会 (KELES) 京滋セミナー京都教育大学 2010年

## ■ 研究・社会活動等

- 外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 運営委員 1998年～  
外国語教育メディア学会 (LET) 理事 2008年～  
外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部 支部長 2012年～  
大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 研究企画委員 2008年～2012年  
大学英語教育学会 (JACET) 関西支部 研究企画副委員長 2010年～2012年

## ■ 学内外研究費による主要研究活動歴

- 同志社女子大学 研究助成金 (個人研究) 学習者のパーソナリティが第二言語習得にあたるインパクトについて 2003年  
同志社女子大学 研究助成金 (個人研究) 学習者のパーソナリティが第二言語習得にあたる影響についての総合的研究 2004年  
同志社女子大学 研究助成金 (個人研究) 日本人英語学習者の学習モデル構築のための基礎研究 2008年  
同志社女子大学 研究奨励金 (科研費) MBTIを活用した日本人学習者ラーニングモデル構築についての研究 2008年  
科学研究費 スタイルとインタラクションを活かす英語学習者方略トレーニング 2011年

## ■ 主要な担当授業科目

- [大学院] 英語学習者論  
[大 学] 外国語教育論、第二言語習得論、卒業研究 (言語)、英語科教育法など

## 一人ひとりの学習スタイルに適した外国語学習者方略 (LSs) を探究する

日本の従来の外国語学習では、クラスサイズが大きいこともあって教師中心の授業や研究が主となっていました。一人の教師に対する学習者の数が多いからこそ、教師は学習者に関するさまざまな情報や、学習に影響を与える要因と、その対処方法についてより多く知っておく必要があります。

外国語学習に関係する学習者要因としては、年齢、性別、学習動機、態度、知能、学習スタイルといった、個人がもつ特性がまず挙げられます。同じように学んでも習得度に個人差が生じるのは、それらに起因することもあります。なかでも後天的に指導可能な要因として近年期待されているのが、外国語学習者方略 (Learner Strategies、以下LSs) です。学習者があらかじ

め持っている特徴に適したLSsが媒介的な役割を果たすことにより、より高い学習成果が導かれるという学説があります。例えば外向的な学生はどのような学習をしているか、また内向的な学生はどうか、と分析できます。それに基づけば、各学習者にとってより効果的なLSsの指導ができるのではないかと考えられるのです。

具体的には、世界70カ国以上で普及し、カウンセリング、学校教育、進路相談などで利用されている信頼性の高い性格検査・MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) の利用です。MBTIでは性格を外向と内向、知覚と判断、感覚と直感、思考と感情といった因子でラーニングスタイルが16通りに分類されます。

現在、このMBTIを手がかりに学習者一人ひとりに適したLSsについて、調査・分析を進めています。

例えば昨今の日本の英語教育、特にOral Communicationの授業では、中・高・大学を問わず学習者の反応が乏しい事態がしばしば問題となっています。そういったケースでは、外向的な学習者の反応を引き出してクラス全体の活気につなげるなど、学習者要因を教授法に活かすことが可能ではないかと考えています。

例えば昨今の日本の英語教育、特にOral Communicationの授業では、中・高・大学を問わず学習者の反応が乏しい事態がしばしば問題となっています。そういったケースでは、外向的な学習者の反応を引き出してクラス全体の活気につなげるなど、学習者要因を教授法に活かすことが可能ではないかと考えています。

